

いのちと暮らしを脅かす

安全保障関連法案に反対する医療・介護・福祉関係者の会

声 明 文

医療も看護も介護も、平和な社会であってこそ。

誰もが安心して暮らせるための、医療・介護・福祉を届けたい。

軽んじないでほしい、いのちを。

戦争への道を開く安全保障関連法案に反対します。

☆ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

多くの命を奪い人権を剥奪してきた過去の戦争の歴史を省みて、戦後の日本社会が、憲法に守られながら努力し、希求してきた真実の平和は、安倍首相が「積極的平和のための集団的自衛権」などと言うところの軽々しい平和とは、意を異にするものです。正義の戦争、世界平和を守るための戦争などはありません、戦争は戦争でしかありません。

いのちを守る医療、いのちを支える介護、いのちを尊重する福祉は、戦争のない真の平和社会であってこそ、保ちうるものです。

日野原先生から寄せられたメッセージ、「医師こそ平和の最前線にたって、行動すべき」の言葉を深く心にとめ、私たち、医療・介護・福祉関係者は、この戦後の日本社会を大きく変えようとしている流れに抗して、専門職として声をあげます。さまざまな職種の医療従事者、介護、福祉関係者、そしてそれらの分野をこれから担う学生諸氏、また市民の皆さんとも手を携え、いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法案の成立に断固として反対し、戦争への道を開く本法案の廃案を求めます。

2015年7月24日